

ゲストティーチャーを招いて (手話について学ぶ)

コロナ禍でこれまでなかなかゲストティーチャーをお招きして、学習することが困難でした。ようやくコロナも少し落ち着いてきたということもあり、今回は榎原手話サークルの方々と生まれてまもなく高熱により耳が聞こえなくなった方をゲストティーチャーとしてお招きし、学習することができました。



写真は加工して掲載しています。



画像は加工して掲載しています。



耳が不自由で声を出すことが困難なゲストティーチャーさんは、幼少の頃、親元を離れて聾学校に通っていたときの思い出や、今手話を通じてたくさんの方とこうしてお話ができるようになった喜びについて語ってくれました。

子どもたちも、手話以外で会話する方法として、「筆談・ゼスチャー・LINE・アイコンタクト」等、様々な方法があることや、聴き方として「うなづく・OKなどのサインをだす」等自分の意思や気持ちを形にして表すことの大切さを肌で感じとることができました。

また手話サークルで手話通訳をされている方々が、「自分は看護師をされていて、耳の聞こえない患者さんに、医師の話をもっと正確に伝えることができれば、患者さんはもっと気持ちが楽になるだろう思い、手話に出会ったということ」や、また「手話は言葉です。みなさんが日本語や中国語・英語を使っている人との出会い、話すように、手話に興味をもつことで、耳の聞こえない方とも話ができるようになり、友だちが増えることにつながります。」と語ってくれました。

最後は、子どもたちが手のひらをキラキラとひるがえしながら、静寂の拍手をゲストティーチャーのみなさんに贈り、感謝の気持ちを表しました。

人との出会いは自分の世界を大きく広げ、自分を豊かにしてくれます。子どもたちは手話を学ぶとともに、素敵な出会いにまたひとつ心が柔らかく、そして温かいものに成長させることができました。
